

やさしいデジタル化の実現に向けた方策の検討について

1 現状

聴覚障害などにより音声聞き取りにくい傍聴者の利便性向上のため、本会議において令和2年度から、音声文字化システムを利用し、議場内のマイクを通して収録した音声を文字データに変換し、傍聴席に設置する大型ディスプレイに表示している。

また、聴覚障害のある議員には、本会議及び委員会においてタブレット端末を貸与し、同様に文字データを表示している。

2 課題

傍聴者アンケートや、利用している議員からの意見として「誤変換が多い」という課題が挙げられている。

3 対応方針

(1) 委員会会議室のマイクの更新について

誤変換の多さの一因として、マイクの收音性能の低さがあることから、令和5年12月末の中継機器の更新に併せて、收音性能の高いマイクに更新する。

(2) ソフトウェアである音声文字化システムについて

当事者団体及び他都道府県へのヒアリングを実施するなど、現在利用している音声文字化システム以外のソフトウェアについて調査を行い、導入について検討する。

4 今後の検討スケジュール（想定）

- 12月1日 ヒアリング結果の提示及び対応方針の検討
- 12月6日 検討結果報告書案の検討
- 12月15日 検討結果報告書案の検討・決定
- 12月18日 検討結果報告書の議長へ提出